Why not Mac?

vol.12

Macを導入しやすい企業とは？

<PART:Ⅲ>

“従業員が利用するITシステムは
思考を止めるものではダメだ”

空気のようにITが使えるワークプレイスの実現

日常生活において、自分の呼吸を意識して生活している人はどのくらいるだろうか。健康管理に対して意識の高い人は、ヘルスチェックの一貫でApple Watchを使って、トラッキングしている人もいるだろう。私自身、自分の呼吸を意識するタイミングは、何か慎重に物事に着手する時や、運動後に呼吸を整えるような時しか意識することはない。

ビジネス現場において、ITを使うということは目的ではなく、課題解決に向けて、思考の整理から、他社とコラボレーション、タスクを効率的に処理することなど、様々なシーンで使われている。従業員はこのような業務に取り組む際に、デバイスやITシステムをどれだけ意識して仕事をしているだろうか。実際には、デバイスのOSがiOSであろうが、Androidであろうが、ビジネスの最前線で働いている従業員にとっては、大した問題ではないことがほとんどだ。目的達成のために必要なツールとして提供されたものであれば、デバイスやITシステムは実際のところ何でもいい。提供するデバイスやITシステムをどう使うのかを考えさせることは、本来従業員に対して時間を奪っていることになり、無駄なコストを生み出していることになる。職場環境において、ITとは「空気のように使える」ことがとても大事なことだ。

例えば、新入社員が入社する時期などは、新しいデバイスのキッティングから、社内で使う各種ツール・業務システムの説明会、配付後のサポートまで、従業員が職場環境に慣れ、業務をスタートするまでに時間がかかる。ITを使い始めるまでのオンボーディングの時間短ければ短いほど、一早く組織に順応することができる。そのためにも、待ち時間を短くすることは、情報システムの担当者にとっても最重要課題の一つに挙げられる。

Appleが提供する企業向けプログラムのApple Business ManagerとMDMを組み合わせて実現するゼロタッチデプロイメントは、まさにこの従業員の待ち時間を短縮するためのものだ。単にデバイスのキッティング時間を短縮するだけが目的ではなく、ユーザがいち早く職場環境に適応し、パフォーマンスを発揮できるようにするためのものだ。アカウント作成からアプリケーションのインストール、プリンタやネットワーク設定まで、キッティングに係る作業はとても多く、挙げ出したらきりがない。一台当たりの時間は数十分かもしれないが、積み上げればとてつもなく大きなコストがかかっていることがわかるはずだ。

情報システム部門の担当者は、従業員の時間をいかにクリエイティブな作業に割り当てることができるか、という視点でITを提供していかなければならない。一人ひとりがクリエイティビティを発揮できる環境を実現することが、情報システム部門の担当者のミッションである、と言い換えてもいい。そのためには、従業員が利用するITシステムは、思考を止めることなく、業務に集中できるものでなければならない。

また、ITシステムの導入において、従業員体験を大事にするということは、情報システム部門だけでなく、経営にとっても大きなインパクトをもたらす。IT投資はぱっと見て高額に見えるところも多く、本当に費用対効果があるのかという不安があるという話を聞く。実際のところ、職場環境やデバイスにまで従業員のニーズを満たすことができるのかが、企業が選ばれるポイントになってきている。特に、Webサービスやアプリ開発などのエンジニアは企業間で奪い合いが起きている現状もあり、良い環境・良いデバイスが提供されるのが当たり前になってきている。IT投資は従業員に対する投資とイコールである。

これらの状況を踏まえて、従業員が利用するデバイスとして「Macを選択する」ということは、最良の選択であると言える。使い慣れたデバイスであるMacを、業務でそのまま利用することができるということ。そして、新しい職場環境に入った場合でも、ゼロタッチデプロイメントにより、すぐに使い始めることできること。何も意識せずに業務に集中することができる、クリエイティビティを最大限に発揮することができるということが、従業員にとって理想的なワークプレイスとなるのだ。

これからの職場環境は、デバイスとクラウドサービスが組み合わさって、デジタル・ワークプレイスになっていく。空気のようにITを使えるようにすることが、デジタル・ワークプレイスに求められる条件だ。そのためには、従業員に配付するデバイス一つとっても、どれだけ短い時間で渡すことができるか、オンボーディングの体験を極力シンプルにすることが大事である。そして、デジタル・ワークプレイスを実現できる企業が、これから先の時代を生き抜くことができるのだ。

1年にわたりこの連載では、Macの企業導入が今はいかに現実的で、かつ価値あるものかを見てきた。従業員にとっても、管理者にとっても、シンプルであるITツールがこれからは求められるし、その解としてMacの企業導入はますます増えていくことは間違いないだろう。これからMacを導入したいと思ってくれていて、少しでも参考になったら幸いだ。